

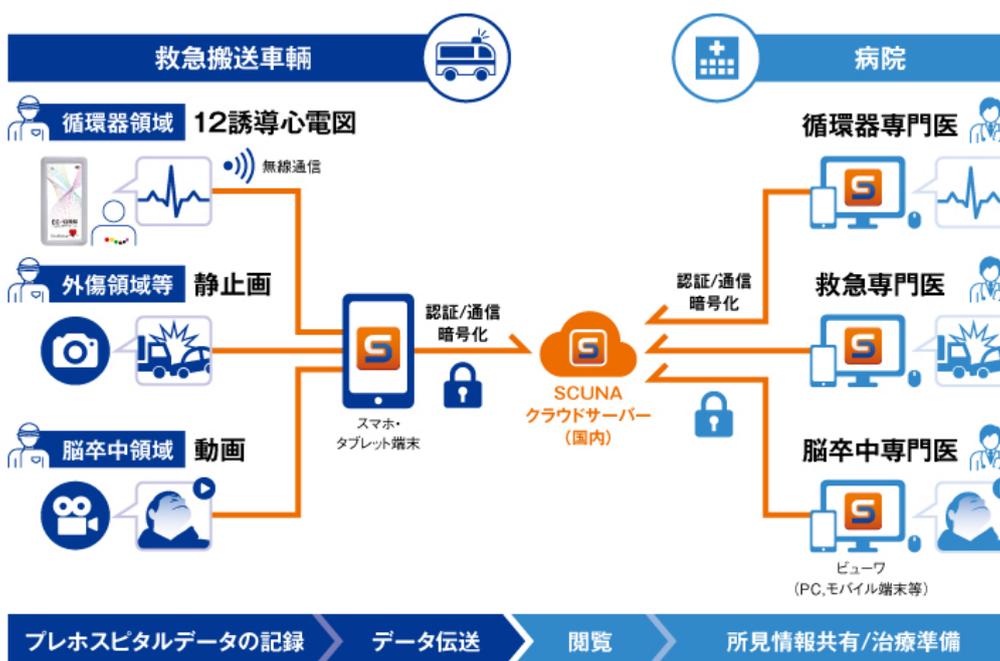
1 2誘導心電図伝送システム導入開始

令和4年6月13日（月）、公立大学法人福島県立医科大学附属病院は、「1 2誘導心電図伝送システム」を福島県の補助を得て県内で初めて導入しました。



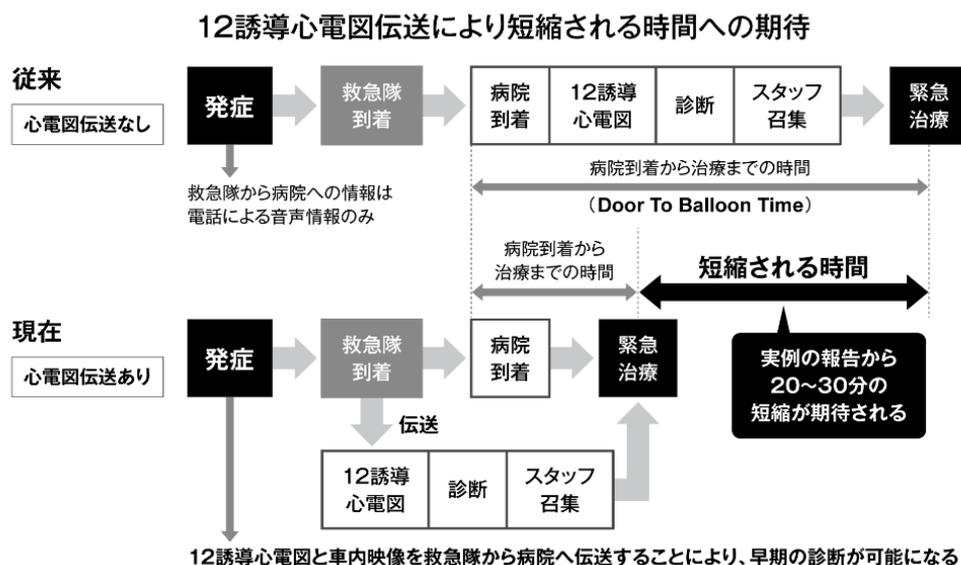
■図1 「12誘導心電図伝送システム(SCUNA)」

「1 2誘導心電図伝送システム」とは、モバイル心電計を用いて、急性心筋梗塞などの患者さんの心電図データを救急現場で取得し、クラウド上に伝送することで、瞬時に病院にいる医師が診断することを可能とするシステムです。（図2参照）



■図2 「SCUNA システム概要図」

今までは病院に到着してから12誘導心電図を取得しておりましたが、システム導入によって、救急現場から12誘導心電図を伝送し、医師が心電図診断することで到着までに対応医療従事者を招集することも可能とし、治療開始までの時間を20分～30分短縮できます。(図3参照)



■ 図3 「SUCUNA 時間短縮につながるフロー図」

治療開始までの時間短縮により、救命率向上に加え、急性心筋梗塞になった後の後遺症を少なくし、社会復帰率の向上にも繋がります。

今回導入したシステムでは心電図伝送のほか、写真や10秒程度の動画の送信もできるため、交通事故などの現場でも活用が見込まれます。

救命救急センターが運用するドクターヘリへの導入により、当院到着までに患者さんの心電図診断及び病院の受入準備を可能にし、患者さんの病院到着から治療完了までの時間(Door To Balloon Time)短縮を目指します。

当院では、今後も救命救急の質向上に努め、県内医療に貢献してまいります。